

Thomas Damm トーマス・ダン

1984	ドイツ、ギーセンに生まれる。
2004	地元GieBener Allgemeine(ドイツ)新聞社で記者兼写真家（インターン）として働く。
2005~2008	ユストゥス・リービッヒ・ギーセン大学で哲学と政治学を学ぶ。
2008	ハノーバー市にあるハノーバー応用科学芸術大学でフォトジャーナリズムとドキュメンタリー写真を学ぶために転学。
2011	WESER KURIER新聞社(ブレーメン、ドイツ)でインターンとして働く。
2013	ハノーバー市と姉妹提携都市である広島に短期留学。 広島市立大学、芸術学部デザイン工芸科で視覚造形を学ぶ。
2015	ドキュメンタリー写真家Gerd Ludwig (ロスアンジェルス、アメリカ)のもとで働く。
2016	ハノーバー応用科学芸術大学で学士号を取得。

展覧会 及び 受賞歴

2015	『黒い雨の被爆者』モスクワ国際写真賞を受賞：（政治部門、アマチュア編集）
2013	『黒い雨の被爆者』写真展、広島市立大学の学生優秀賞 受賞
2012	Lumix フェスティバル グループ展 WESER KURIER
2012	Photokina グループ展 ハノーバー応用科学大学
2011	“Hellfeld Polizei und Fotografie” グループ展 ハノーバー
2010	“On the traces-Forced Labour in Europe” グループ展

黒い雨の被爆者

日本の戦地において最初の核爆弾が落とされた後、日本では未知の影響を受けている特別な爆弾の犠牲者を調査しました。国は、日本各地にいる差別を受けている放射線被害者に無料で医療を提供しましたが、誰が爆弾の被害者になったのか、誰が犠牲にならなかったのかを知るために、黒い雨と呼ばれた雨、放射能降下が起こったと思われる地域を含む広島周辺に線が引かれました。しかし、この線引きは未だに広島の郊外の人々にとり公式に被爆者と認められるかという議論の対象となっています。私は、2014年から日本の国家に対して公認するよう訴えている人々と会い、（2013年広島市立大学に留学中）肖像画を撮影しました。